

第 2 回佐倉市総合計画審議会 要録

日 時	2019年3月19日（火）15時00分～17時00分
場 所	佐倉市役所1号館3階会議室
出席者	明石委員、淡路委員、佐藤委員（会長）、遠山委員、服部委員、山本委員、 橋本委員（副会長）、坂本委員、石井委員 （欠席）安川委員
事務局	岩井企画政策部長、和田企画政策課長、藤崎、齊藤、東城、児島
その他	株式会社ぎょうせい 木戸
議 題	（1）第4次佐倉市総合計画の進捗状況について （2）第5次佐倉市総合計画の策定状況について
配布資料	資料6 第4次佐倉市総合計画の進捗状況について 資料7 佐倉市に対する市民の思い 資料8 第5次佐倉市総合計画策定に当たっての市民意見交換会報告書 資料9 高校生によるまちづくりワークショップ報告書 資料10 千葉敬愛短期大学の学生によるワークショップ報告書 資料11 団体意見交換会報告書 資料12 社会情勢の変化と佐倉市の課題
傍聴者	0人

会長あいさつ

前回の審議会においては、第5次総合計画の策定方針や基礎調査の結果、市民意識調査の結果などについて議論を行った。今回は第4次総合計画の進捗状況やその他の内容について、この審議会として共通認識を持ちたいと思う。

報告事項

・第1回審議会において指摘のあった点について、報告を行った。

（1）第1回審議会の資料2（基礎調査報告書P.6）では市民の東京への通勤割合に減少傾向が見られるが、資料3（市民意識調査P.9）では逆の傾向がみられる。どのように考えればいいのか。

（回答）資料3の内容は、回答者自身ではなく「回答者の世帯の生計を支えている人の勤務先」に対してのものであるため、回答者の従業地・通学地を回答する国勢調査（資料2）と単純に比較することは困難です。市民意識調査がサンプル調査なのに対し、国勢調査は全数調査になるため、国勢調査の値が実態に近いものと考えられます。

（2）資料3では、前回の調査との経年比較が行われているが、例えば回答者の年齢構成などは前回と違いはなかったか。回答者の構成に違いがあった場合、経年比較の結果は変わってくるのではないか。

(回答) 前回調査と回答者の構成を比較すると、18歳～49歳の回答比重が高くなっています。そこを加味し、比重調整をした結果と比較したが、資料3を全体的に覆すような結果の変化はみられませんでした。

(1) 第4次佐倉市総合計画の進捗状況について

事務局	<p>資料6に基づき説明。その概要は、以下のとおり。</p> <p>「まちづくりの基本方針」の進捗状況 総合計画の施策体系ごとに、主な指標の状況や主な成果について説明した。</p> <p>「重点施策」の進捗状況 第4次佐倉市総合計画においては、佐倉市総合戦略をリーディング施策(重点施策)と位置付けており、その進捗管理をすることで総合計画のPDCAを行っている。 佐倉市総合戦略に定める基本目標ごとの7指標について、1指標が目標達成、1指標が順調に推移しているが、5指標は初期値を下回っている。KPIについては、設定したもののうち42.3%が目標達成している(いずれも2017年度実績)。</p>
委員	<p>総合戦略の基本目標4の指標(アンケートにおいて「今後も佐倉に住み続けたい」と答えた人の割合)について、アンケートによる意識調査の指標は不安定で不明確なので採用すべきではない。また、基本目標4の指標はA(目標達成)にもかかわらず、その具体的施策のKPIはD(初期値以下)のものが多い。 住み続けたいことは事実だと思うが、重要なのはそのために何が課題になってくるのかということ。基本目標4の指標だけ見ると、みんなまちの状況に満足しているように見えてしまう。このあたりのことについて考えていただきたい。</p>
事務局	<p>次期総合戦略策定時には、ご指摘を考慮します。</p>
委員	<p>総合戦略の体系と総合計画の体系が合っていない。総合戦略の進捗状況をみると、特に総合計画の6章と4章はうまくいっていないように読める。次期総合計画では、うまく合わせていく必要がある。</p>
副会長	<p>総合計画で基本方針として6項目が設定されているが、理念的であるため、いい面としては組織横断的に考えやすいが、悪い面としては具体的施策が立てづらいということがあると思う。次期総合計画では具体的な施策を立てやすいように、総合戦略に合わせた施策体系にするのがよいのではないかと。 また、総合計画の40施策を私なりに分類してみたが、まちづくり10施策、人づくり20施策、仕事づくり4施策、その他6施策。仕事に関する施策が少ないと思う。 さらに、指標を見ていて、合計特殊出生率が極めて低いと思った。強く言いづらい</p>

委員	<p>部分もあることだが、徳島市は総合戦略において「子育てするなら3人以上」を打ち出している。そうしたことも考える余地があるのではないか。</p> <p>資料6の表紙を見ていて、シティプロモーションのコンセプトがここに表出しているとしたら、あまり好ましくないと思う。歴史や文化は重要だが、出生率に関することや住むところについての施策が進まないと人は来ない。シティプロモーションの方向性については一考の余地があるのではないか。</p>
----	--

(2) 第5次佐倉市総合計画の策定状況について

事務局	<p>資料7～12に基づき説明。その概要は、下記のとおり。</p> <p>資料7 佐倉市に対する市民の思い 資料8～11の意見交換会をまとめたもの。</p> <p>資料8 市民意見交換会報告書 一般市民の参加を得て、市民の幸せをテーマとして、それを実現するためにできること、市民・団体等・行政の役割について意見交換を行った。子育て支援や高齢者対策、歴史、自然、文化にかかる意見のほか、AI活用や多文化共生等の意見があった。</p> <p>資料9 高校生によるまちづくりワークショップ報告書 市内4校の高校生の参加を得て、市民の幸せをテーマとして、それを実現するためにできること、自分自身や地域・行政の役割について意見交換を行った。学費の心配をせずに進学できること、お金に困らないこと等が幸せとする意見や、商業施設や遊べる場所を作ること、コミュニティの活性化等の意見があった。</p> <p>資料10 千葉敬愛短期大学の学生によるワークショップ報告書 千葉敬愛短期大学の学生の参加を得て、佐倉市が若者に選ばれるまちとなるために必要なことをテーマとして意見交換を行った。商業施設の充実や働く環境の充実等が必要という意見があった。</p> <p>資料11 団体意見交換会報告書 市内の各種団体の参加を得て、業種の枠を超えて、市民や団体による連携・協働について意見交換を行った。多くの団体において、担い手不足や高齢化が課題となる中で、団体自身が事業活動の普及啓発等の推進を図ることや、行政による団体間の橋渡しや横断的な課題に対応するための体制構築が必要等の意見があった。</p> <p>資料12 社会情勢の変化と佐倉市の課題</p>
-----	--

<p>委員</p>	<p>昨今、人口減少や経済情勢、高度情報化社会の発達、地方創生・地方分権などの社会情勢の変化があり、佐倉市をはじめ各自治体においては、地域コミュニティの希薄化、高齢者の活躍の場の創出、健康寿命の延伸や住民ニーズの把握、政策への反映などについて、今後、課題になってくるととらえられる。</p> <p>精力的に市民意見を聴取したのはいいことと思う。しかし、総合計画策定においては、市民・団体の意見に加え、行政や地域の運営などの鳥瞰的な上位の視点も必要になる。市民個々、団体個々の問題意識だけではなく、何が本質的な課題かを押さえる必要がある。</p> <p>例えば、地域経済循環率が64.5%で県下29位という話があったが、これはゆゆしきデータだと思うし、市民に啓発すべきことだと思う。市民が住み続けるかどうかを判断することができるような情報提供システムをつくるべきである。</p>
<p>会長</p>	<p>地域循環率の向上は、行政だけでは難しいと思う。商工会議所等と連携しながら取り組んでいくことが必要。</p>
<p>委員</p>	<p>市民の意識、意見をどう計画に反映していくかは、重要なことだと思う。</p> <p>例えば、アンケートで住み続けたいかと聞かれた場合、家があつて住み続けるしかないのでは住み続けるという回答するのではないか。その場合、アンケートの結果が住みよさを意味していない可能性が出てくる。市民の発している真意を、市が把握する必要がある。</p> <p>例えば今後、単発的に意見を聴くだけではなく、同じメンバーに徹底的に議論してもらふスタイルもとりうるのではないか。その場限りの意見ではなく、市や国の置かれている状況を勉強していくことで、市民もまちづくりに真剣に関わるようになると思う。</p> <p>資料12には、とても幅広い観点、課題が記載されていたが、現在の行政ではこうしたものを網羅することはできない。市民に参加してもらえる仕組みを考える必要がある。</p>
<p>委員</p>	<p>アンケートに頼りすぎではいけない。例えばマーケティング手法として、モニター制度とあって、年齢や地区ごとにある程度人数を確保して、定期的に意見を聴くものがある。こうした手法も必要ではないか。</p> <p>資料12に挙げられた課題はよいが、総花的でもあるので、集約してとらえる必要がある。地域コミュニティの希薄化・弱体化が大きな課題だと思うので、どう再生するかという観点が必要だと思う。</p> <p>また資料12には、施策横断的連携や政策形成能力の向上、EBPMといったことが挙げられているのはよいと思う。地方分権の時代においては、政策形成能力の向上が非常に重要。人材育成の観点から、市の職員を県や国へ派遣する等、研修体制をどのくらい組んでいるのか。</p>

事務局	<p>中小企業庁や資源エネルギー庁には派遣の実績があります。過去には海外への派遣もしていたが、費用の問題から、現在では実施していません。</p>
委員	<p>総合戦略はよいつくりだと思う。</p> <p>資料7において、市民や地域の役割が埋まっていない欄が目立つ。意見交換会において、埋めるような努力がされていなかったのではないか。どのような視点で、意見を拾い、まとめたのか。</p>
事務局	<p>意見交換会においては、ワークショップ形式で、事務局から特に分野を限定して意見を求めたわけではなく、自由に意見をいただきました。資料7のような形式で意見を求めたわけではありません。</p>
委員	<p>市民意見交換会に参加したが、参加者それぞれでテーマ設定をしていた。テーマの範囲が広すぎて、意見が出にくかったというところはあると思う。具体的な意見を出しても、最終的に市民自身でまとめていくときに概要になっていっているとも感じた。</p> <p>また、佐倉市が取り組んでいることがわからないので、自分の普段の生活の中での実感から意見している人が多かった印象がある。そのため、交通が不便、福祉が課題等の意見が多くなったのではないか。</p>
副会長	<p>市のホームページは少し堅いと感じている。市のホームページにリンクしない形で「市民のひろば」のようなサイトは作れないか。こんなことができないかという意見を市民につぶやいてもらえる場をつくり、運営はボランティアで行うのがよい。</p> <p>そのための人材は、ボランティア人材バンクで高齢者等を活用する。ポイント制として、ポイントが貯まると表彰する等、人件費のかからない形とする。その中で、総合戦略の発信等も行い、情報発信と情報受信を双方向的に行う。</p> <p>歴博、観光案内、商店街連合会等とのリンクも設ける。</p>
委員	<p>日頃の銀行業務の中で、はがき、Facebook、インターネットと多岐にわたりご意見をいただくが、全てがお客様の意見であり、重い軽いはない。市へのご意見でもおそらく同じで、どこから入ってきた意見でも重要であり、ボランティアのみで扱うのは難しいのではないか。</p>
委員	<p>イベント運営でも、ボランティアに手伝ってもらうのは大変なこと。ボランティアに過剰に責任のある業務を課すことは困難であり、何かあったとき、市の職員が責任を持って対応できる体制でなければ実行は難しいと思う。</p>
委員	<p>総合計画への市民意見や統計の反映の話に戻るが、アンケートを整理するというのは、本来ものすごく難しいこと。アンケートを高所から読み解くのが行政の役割であり、この審議会の役割である。</p>

副会長	<p>それに関して思うのが、佐倉市は市役所の誰1人、市の性質を定義しない。私は、佐倉市は歴史のまちではなく「住宅都市」だと思う。戸建て住宅があるから人が入ってくるし、そうでなければ産業も入ってこない。</p> <p>住宅都市という方向性の中で、中古住宅の流通の促進する必要がある。住宅を再利用し、財産化することで、市民の老後の豊かさにつながる。したがって、住宅の再生は大きく取り扱わないといけない。市民の意見では空き家対策もあったが、流通対策まで言及したものはなかった。検討していくべきだと思う。</p> <p>行政の知識のあまりない市民が、行政の担っている部分を直接カバーしていけるかは課題である。</p> <p>先ほどの「市民のひろば」の案は市の広報は市民が代行できないかということで、提示したものである。また、高齢者の活用も重要な課題で、人材バンクとして定年退職した人を登録できる仕組みや、リーダー育成も検討すべきことと思う。</p> <p>そうした人材から、NPOを組織し、協同組合、企業と成長していく流れも考える必要があるのではないか。</p>
委員	<p>外から見ても、佐倉市は住宅都市である。今後の人口問題等から考えて、佐倉市は住宅再生工場と銘打つような展開も必要ではないか。そうした取組は個人では難しいので、NPOなどの法人格の組織を立ち上げてもらい、行政と両輪で進める必要がある。</p>
会長	<p>佐倉市の市民一人当たりの財政規模は、県下でも低い。住宅都市であることに一因があると思う。また、先ほどのご指摘にある、高齢者の活用というのは重要な視点である。</p>
委員	<p>中古住宅の流通する住宅都市という打ち出し方は、非常に特徴があって、他ではやっていない。そういうものがなければ、地域に変化を与えられない。エネルギーをもって参加してくれる市民をどれだけ集められるかが、重要になってくると思う。</p> <p>私も業務の中で地域活性化にかかわる場合、最初にエネルギーのある地域のキーマンを探す。それから提案を創っていき、行政に提案する。そのくらい地元の人のエネルギーというのは重要だと思う。</p> <p>中古住宅の流通という視点を、長期間にわたって市民と議論できるようなことができれば、全国唯一のまちになっていくのではないか。</p>
委員	<p>中古住宅の流通ということで課題に思うのは、佐倉市は近居・同居の住替えに対して補助をしているが、他市からの転入が主な対象で、祖父母と同居している子育て世帯が近居になるような市内転居には支援がない。これでは住替えの際に、市外でもよいという考えになってしまう。</p> <p>また、中古住宅のリフォームをしたい場合に、市内ではどこに相談したらいいのかわかりづらい。事業者のチラシや看板はあるが、酒々井町のように登録業者がいるわ</p>

	<p>けではない。</p> <p>現状の佐倉市の空き家バンクは、ただの仲介業者になっている。その空き家の良さのPRやリフォームへの提案など、もう少し市がかかわっている良さがないと、移住につながらないのではないかと。</p>
事務局	<p>中古住宅の流通については、現在の市内の実績としては、ユーカリが丘でライフステージにあわせた住替え・リフォームを展開している事業者がいます。</p>
委員	<p>ユーカリが丘の取組はよいと思うが、子育て世帯が自分たちの思い描く家というわけではなく、すでにリノベーションされた状態で売っている。そうなると中古住宅としては高くなると思う。多様な選択肢がなければ、中古住宅流通の活性化は難しいのではないかと。</p>
会長	<p>資料6のKPIに設定されている、認知症サポーター2万人という目標は、高い目標なのか。</p>
事務局	<p>次回、他市との比較を行いたいと思います。</p>
会長	<p>これをもって本日の会議を終了する。</p>

以上